

<金標準、円キャリーの巻き戻しで円安の支援を失い 8700 円割れへ・・・>



(出所：オアシス)

豪州の政策金利が据え置かれたが、6月開催のFOMC議事録では一部のメンバーが0.25%の利上げを示唆するなど、年2回の利上げが肯定されるタカ派の内容が伝わると米国10年債の金利は4%を超え、またADP雇用統計のサプライズを受けてFFレート誘導目標に近い短期2年債は一時2007年の金融危機以来の5.12%まで上昇している。特に為替市場で金利差から円キャリートレードが強まり、円安・ドル高が進むにつれてNY金は1908.5ドルまで下値を模索している。特に金標準先物は、昨年9月の財務省の為替介入を実施した145円に迫り、8962円まで高値を試すも、介入懸念を受けた円高に押されだすと週末には雇用統計を受けた円高で8788円まで下値を試している。特に円キャリーで積み上げられた円売りの巻き戻しが予想され、金標準先物は円安の支援を失った調整安へ向けた基調が強まると見られ、5月15日の安値8665円へ向けた値動きに注意が必要と思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDやRCIでは、MACDはMACDが下げながらシグナルも切り下げ、RCIでは短期が下げて、長期も下げだすなどオシレーターの基調は弱気へ変化している。特に日足が10日移動平均線を下回りながら、40日移動平均線も下回るなど、目先は8700円割れを試す可能性を高めたと思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,250,000 円(2023 年 7 月 10 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 87,120 円(2023 年 7 月 10 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会が開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>